

各関係機関長 様

熊本県病害虫防除所長

麦類病害(赤かび病、オオムギ網斑病)の防除対策(技術情報第15号)について(送付)

このことについて、下記のとおり取りまとめましたので、業務の参考に御活用ください。

記

今年の麦類は平年に比べて生育が早く、麦類病害(赤かび病、オオムギ網斑病)の防除適期が例年より早まることが予想されます。

1 麦類の生育について

- (1) 農産園芸研究所作物研究室(合志市)の作況調査では、令和2年産麦(11月21日播種)の幼穂(3月1日時点)の生育は、平年に比べて、はるしずく(二条大麦)で11日程度、シロガネコムギ(小麦)で18日程度早い(図1、2)。なお、平年の出穂期は、はるしずく(二条大麦)が3月31日、シロガネコムギ(小麦)が4月6日である。
- (2) 福岡管区气象台が3月5日に発表した気象予報によると、3月の気温は平年より高い予想であるため、麦の生育は今後も早まると考えられる。
- (3) 平年より出穂期が早まることが予想されるため、ほ場をよく観察し、防除適期を逃さないよう散布スケジュールの調整を行う。

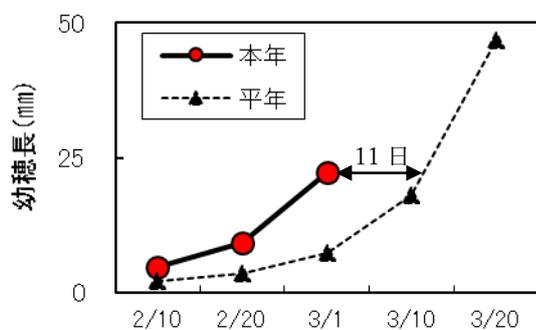


図1 幼穂長の推移(大麦はるしずく)

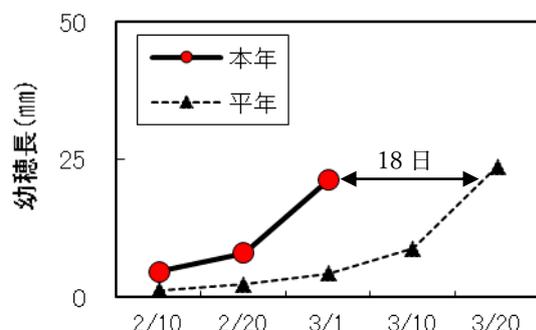


図2 幼穂長の推移(小麦シロガネコムギ)

2 防除対策について

- (1) 赤かび病の薬剤散布時期は、小麦では開花を始めた時期から開花期（1穂につき数花開花をしているものが、全穂数の40～50％に達した日）までの間とその7～10日後、二条大麦では、穂揃い期（全茎の80～90％が出穂した日）の10日後頃とその7～10日後。
- (2) 赤かび病の防除薬剤は予防効果が主体であるため、散布時期が遅れないよう適期に2回の防除を行う。
- (3) オオムギ網斑病の発生が県内の一部ほ場で確認されている。本病に登録のある散布薬剤は、赤かび病に対しても有効であり、赤かび病との同時防除が可能であるが、病斑が上位葉に進展している場合は、臨機防除を実施する。なお、臨機防除後に同時防除を行う場合は総使用回数に注意する。
- (4) 麦類の出穂期や開花期等は気温に左右されるため、今後の生育状況に注意する。
- (5) 農薬を使用する際は、必ずラベルなどで使用方法を確認し、登録がある農薬を使い、収穫前使用日数や使用回数、希釈倍数等を遵守する。また、ミツバチや魚介類など周辺動植物及び環境へ影響がないよう、飛散防止を徹底するとともに、事前に周辺の住民や養蜂業者等へ薬剤散布の連絡を行なうなど、危害防止に努める。

※アメダス実測値を用いた赤かび病多発条件出現日の判定結果を病虫害防除所のホームページ (<http://www.jppn.ne.jp/kumamoto/>) に掲載し、随時更新します。

熊本県病虫害防除所 (熊本県農業研究センター 生産環境研究所 病虫害研究室 予察指導係) 担当：作本 TEL 096-248-6490
--